

令和4年度日本農林漁業振興会会長賞受賞者受賞理由概要  
多角化経営部門

希少豚の育成、加工、販売による経営発展や地域振興の実現

○氏名又は名称 有限会社ふくどめ小牧場（代表 福留 俊明）

○所在地 鹿児島県鹿屋市

○出品財 経営（肉豚）

○受賞理由

・地域の概要

鹿屋市は、大隅半島のほぼ中央に位置し、温暖な気候や豊かな自然環境に恵まれている。基幹作業である農業では、肉用牛や養豚などの畜産業をはじめ、施設野菜や広大な土地を活用した水稲の他、甘藷などの畑作も盛んである。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

会長である父が昭和46年に黒豚の養豚経営を開始し、現代表である長男を含む3人の子供達はそれぞれが海外留学を経験後に参画し、各自が海外で得た知識・経験を生かして長男が飼育管理、次男が食肉加工、長女が直売所兼レストラン運営を担当し、豚の生産から加工・販売までの一貫経営を実現している。

・受賞者の特色

（1）希少豚やオリジナル豚の育成や管理

研究を重ね、肥育の難しいヨーロッパの希少豚「サドルバック種」の飼育・繁殖に成功するとともに、サドルバック種と白豚を自社交配したオリジナル豚「幸福豚」を開発・育成している。エサや水にもこだわり、エサは自家配合により製造している。飼育管理の面では、特に悪臭対策について研究を重ね、小まめな清掃等による衛生管理の徹底と餌に微生物や納豆菌を加える等の対策を行っている。

（2）生産した豚を生かした加工製品の開発

自社精肉加工所で精肉販売の難しい部位をハムやソーセージに加工し、骨は地元中華料理店で利用してもらうなど、1頭丸ごと加工販売する取組を続けている。高級レストランへの精肉販売、加工品は自社直売所のほか、百貨店やインターネット等で販売し、サドルバック種とオリジナル豚「幸福豚」やドイツの製法を再現したハムやソーセージ類は実需者、消費者から高い評価を得ている。

・普及性と今後の発展方向

社名である「ふくどめ小牧場」の「小」は、経営の規模を追求し大規模な農場で量を確保するのではなく、質にこだわりを持ち続け、経営理念である「小さな幸せを食卓に」届けたいとの思いから名付けている。牧場の知名度は向上し需要は増えているが、「まっすぐ、丁寧に、手間ひまかけて」とのモットーを踏まえ、今後も規模拡大より生産物の品質向上に力を入れていく計画である。